

- 長崎県では、パンや中華麺用の硬質小麦「長崎W2号」が品種化され、ちゃんぽん麺業者等の実需者と連携して生産拡大を進めてきた。
- 五島地域は県内でも麦類の作付が多い産地で、既存の軟質小麦「チクゴイズミ」から「長崎W2号」の転換により麦生産者の所得向上を図るため、関係機関と協力して「**長崎W2号**」の作付拡大推進に取り組んだ。
- その結果、「**長崎W2号**」の栽培面積が拡大し、**県全体の「長崎W2号」の供給量の増加**や生産者の**単位面積当たりの収益の増加**が図られた。

具体的な成果

1 栽培面積の拡大

■ 推進研修会や重点地区での作付推進により、**五島地域の作付面積が拡大した。** 県全体の作付面積を押し上げ、**県全体の供給量も飛躍的に拡大させた。**



※JAごとう全体および重点地区の作付面積 (ha)

2 生産者の所得向上

■ 既存品種の「チクゴイズミ」と単収を同程度とすると、令和元年産の「長崎W2号」は「チクゴイズミ」と比較して**10aあたり11千円程度収益性が高く、農家所得向上が図られた。**

品種	単収 (kg/10a) ①	R1年産検査等級	交付金単価 (円/kg) ②	交付金額 (円/10a) ③=①×②
チクゴイズミ	378	2等A	93	35,154
長崎W2号	386	2等C	120.5	46,513

※ 単収は長崎県主要農産物奨励品種特性表より
 ※ 検査等級はJAごとうのR1年産検査実績
 ※ 交付金単価は令和元年度経営所得安定対策交付金より

普及指導員の活動

平成27年～平成29年

- 関係機関の方針統一
振興局・JA・市の**関係機関で推進方針の検討、役割分担の確認を実施**した。
- 展示圃設置
「長崎W2号」の現地適応性の確認と生産者への周知を狙い、展示圃を設置した。

平成29年

- 五島地区「長崎W2号」推進研修会
研修会や試食会を通じて**生産者の栽培意欲向上を促し、本格栽培に向けた栽培技術の指導を実施**した。

平成29年～平成30年

- 重点推進対象の選定と作付拡大推進
重点対象地区として富江地区小麦生産者と岐宿地区の(農)かわらファームを選定し、**作付を奨励し**、面積拡大を図った。

平成30年～継続中

- 重点対象地区での栽培指導
栽培講習会・現地検討会・巡回指導等を行い、**適正管理の徹底、更なる作付推進を実施**した。

普及指導員だからできたこと

- ・ 試験研究機関等の技術情報をJA指導員や現場の生産者に下ろすことや、関係機関との調整を図りながら方針を設定したことなどにより、**品種転換の有利性を認識させ、産地拡大を進めることができた。**